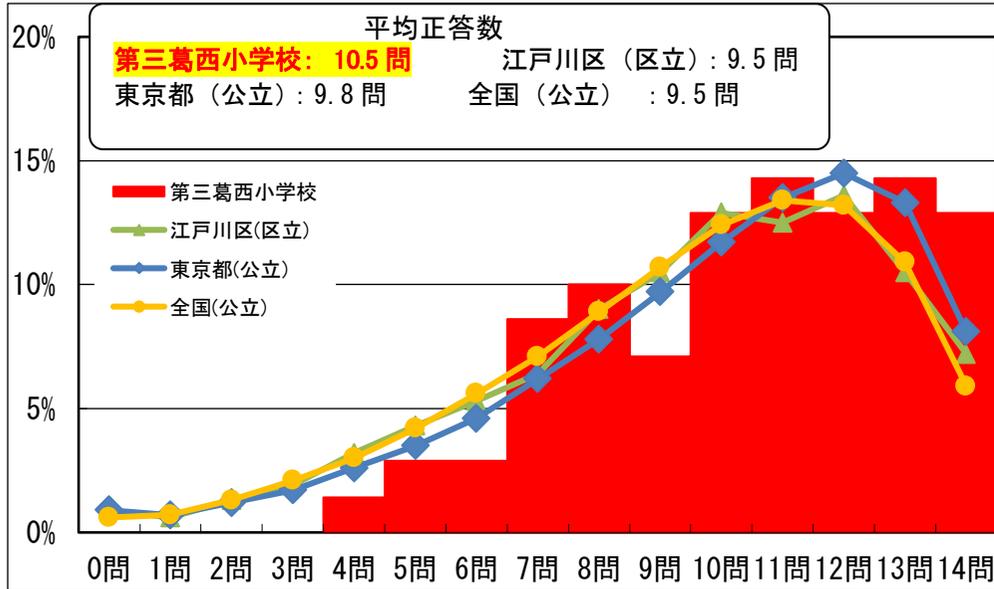


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 第三葛西小学校

## 正答数分布



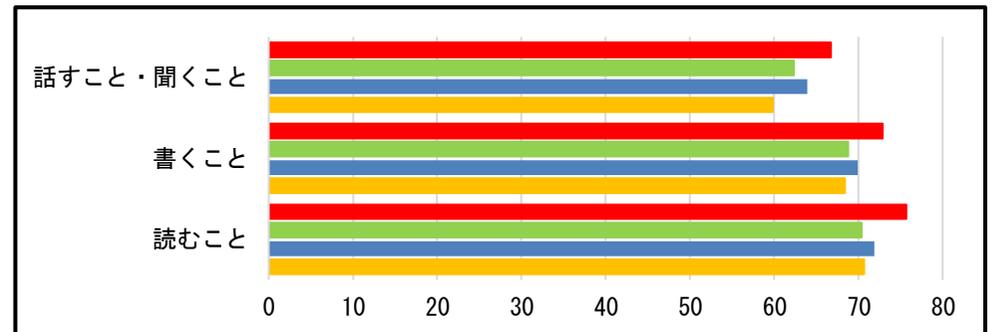
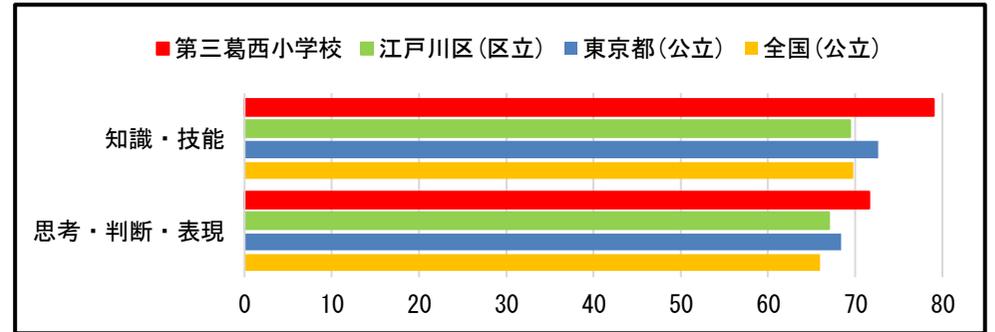
### <四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
第三葛西小学校	40.1	27.2	17.1	15.8
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【平均正答率の差】

第三葛西小学校	75%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	5ポイント

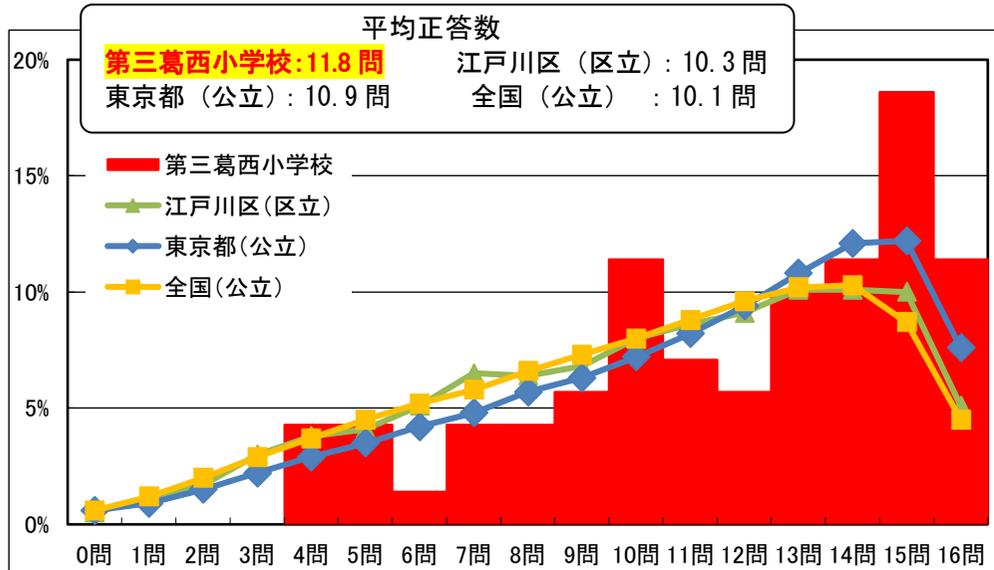
%

### 【分析結果と授業改善に向けて】

- ・平均正答率は都の平均を5ポイント上回った。上位層、下位層ともに割合が昨年度とほぼ変わっていない。
- ・本校の課題である記述問題は、国語では2問とも都の平均を上回り、1問目は5.5ポイント、2問目は8.1ポイント上回った。
- ・文章を論理的に読み取り、表現する力の向上を目指し、教材の工夫、環境の整備、発問の精選等の取り組みを行っている。
- ・日常的な取り組みの話型を活用し、説明する力を育てていること、スピーチ活動を通して話す内容を整理する力や表現力を高めていることを今後も継続していく。

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 第三葛西小学校

## 正答数分布



## <四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
第三葛西小学校	41.4	15.7	28.5	14.3
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

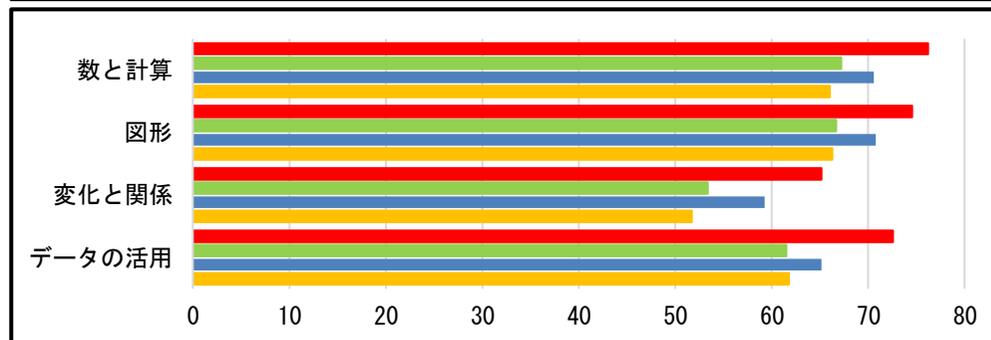
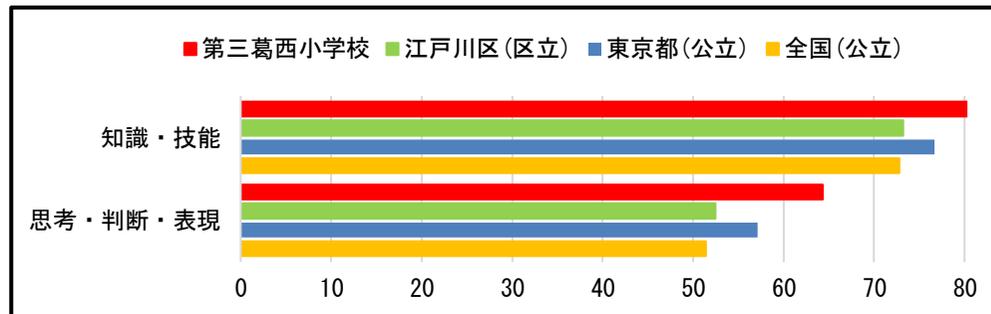
## 【平均正答率の差】

第三葛西小学校	73%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	5ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

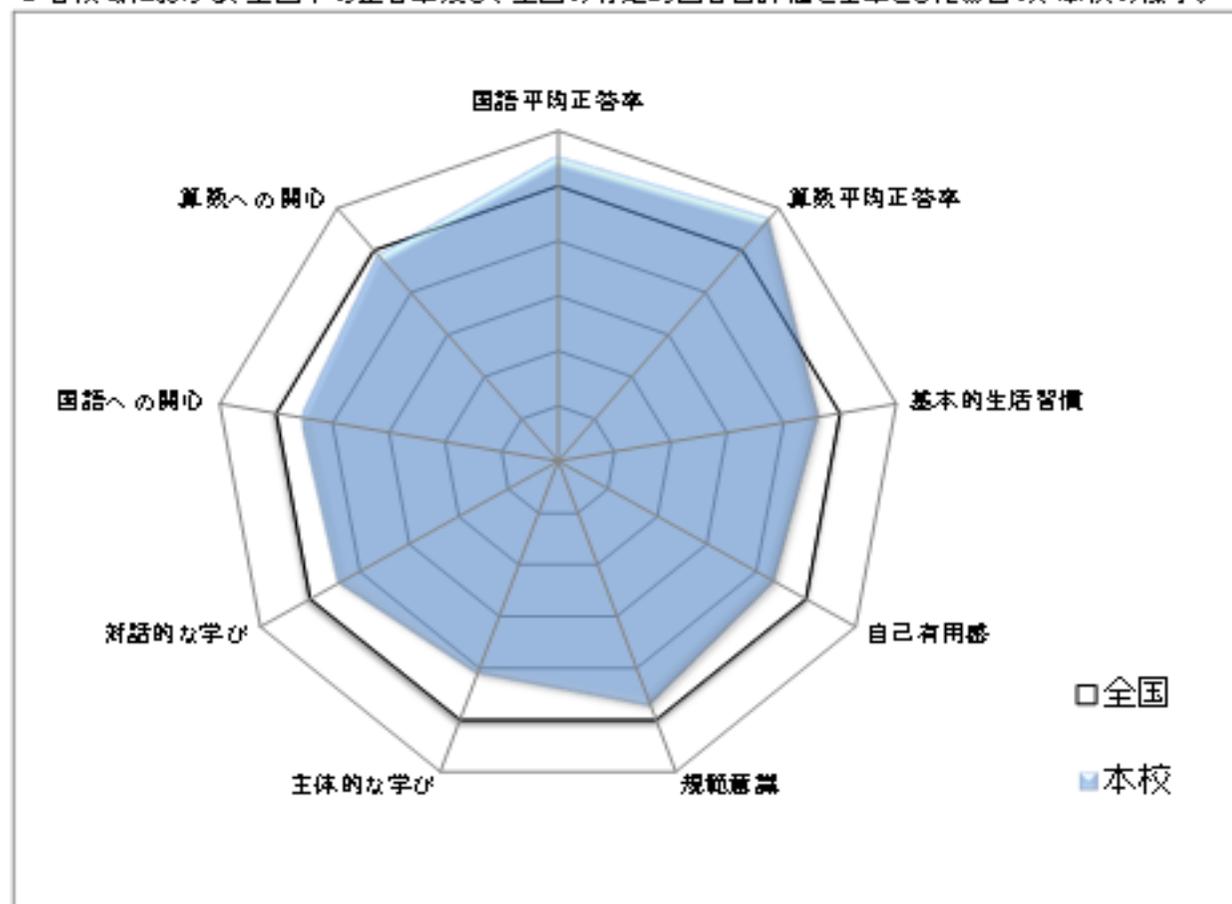
## 「領域別」の結果



## 【分析結果と授業改善に向けて】

- 平均正答率は都の平均を5ポイント上回った。要因として、D層の割合が低くなっていることが大きい。また、昨年度まで課題としていた記述式問題での正答率が都を6ポイント上回った。A層も都の平均を約10ポイント上回った。
- 習熟度コース別で授業の流れを工夫し、児童の実態に応じた学習展開を行っていく。
- 演算決定の根拠として大切な数直線図のかき方を中学年から丁寧に指導し、高学年になったときに適切に活用できるようにする。
- 授業で扱う問題の質と量、家庭学習との関連等についてさらに検討し、学習内容の定着を進めていく。

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○国語・算数ともに平均正答率が全国平均を上回っている。自力解決、話し合い等を通じた学習による成果が出てきたと考えられる。しかし、国語・算数への関心は平均を下回っている。今回の結果が自信に繋がるが良い。  
○教科の正答率以外は、全国平均を下回っていることから、「基本的な生活習慣」を整え、「規範意識」を育てていく中で「主体的な学び」や「自己有用感」も育てていきたい。

《授業改善のポイント》

○文章を論理的に読み取り、表現する力の向上を目指し、教材の工夫、環境の整備、発問の精選等の取り組みを行っていく。  
○日常的な取り組みの話型を活用し、説明する力を育てていること、スピーチ活動を通して話す内容を整理する力や表現力を高めていることを今後も継続していく。  
○習熟度コース別で授業の流れを工夫し、児童の実態に応じた学習展開を行っていく。  
○演算決定の根拠として大切な数直線図のかき方を中学年から丁寧に指導し、高学年になったときに適切に活用できるようにする。  
○授業で扱う問題の質と量、家庭学習との関連等についてさらに検討し、学習内容の定着を進めていく。

《チャートの特徴》

○国語、算数ともに平均正答率が全国平均を上回っている。それに比べて、国語や算数への関心は全国平均を下回っている。  
○「基本的な生活習慣」「自己有用感」「規範意識」「主体的な学び」「対話的な学び」については全国平均を下回った。

《家庭・地域への働きかけ》

○家庭での学習習慣が身に付くよう、家庭学習への取り組みについて呼びかけ、スタディウィーク等の学校全体での取り組みを発信していく。  
○学校ホームページ等で教育活動の様子を発信し、保護者や地域へ理解を促す。